

【事業運営部門】 ③ 子育て支援事業「樹の子」（旧：子育て子育て支援事業）

チーフディレクター 津田 千華

子どもが自ら育つチカラをめいっぱい発揮し、のびのびとできる社会を創っていくために。

子育て支援事業は、
子どもの育ちをいちばん近くで見守る『かぞく』もイキイキのびのびできる支援をする。
かぞくが元気なら、子どもも元気にすくすく育つ。
子どもをまんやかに、『かぞく』丸ごと元気になることを目指します。

《 2024年度 総括報告 》

「子育て子育て支援事業」は、日々子育てと向き合う保護者も、自ら育とうとする子どもも、どちらも包み込んでサポートしたい！そんなオモイで名付けた事業名です。事業立ち上げから変わらずそのオモイでやってきた中で、気づいたことがあります。

それは、こちらが特に手を差し伸べなくても、乳幼児期の子どもには本来自然に「あるがままでいようとするチカラが備わっている」。そのチカラが最大限発揮されるには、その成長に最も近くで関わるとおとな＝保護者（特に母）がどう在るかが大きく影響している、ということです。

つまりおとなが「ありのまま、イキイキのびのびと元気でいれば」子どものチカラは自然と発揮されると言えます。

だからいま、特にチカラをいれるべき…サポートしたい…のは、保護者（特に母）だと、以前よりも実感を伴って力強く思うようになりました。

そこで2025年度からは、**なんのための事業なのか、より伝わりやすく広がりやすい、そして、注カポイントが伝わる**ことを願い、事業名を「子育て支援事業」に変更しました。

子どもの自ら育つチカラ＝”子育て”を支援したい気持ちは変わりません。そのチカラを最大限発揮するために、保護者である「おとな」を包み込み、イキイキのびのびできる居場所を創ることが一番の近道になると考えています。

《 2025年度 全体方針 》

“わたしが生きる、かぞくが生きる、こどもが生きる” 場をつくる

母が「イキイキのびのび」と活躍できる場づくりから、その家族や子どもたちが「イキイキのびのび」と生きる社会を創ることを目指します。

母たちを応援・サポートすることに注力し、対話を重ねて、共に安心な場を創ります。また、1人ひとりの個性やチカラが生きるサポートやコーディネートに努めます。

《 各事業 報告・方針 》

以下の2事業について、それぞれ報告と25年度方針をおこないます。

- ◎ そだちあい広場おはな（毎週火曜日10:00～15:00）
- ◎ 親子いどこ塾（土日祝日：不定期開催）

◎ そだちあい広場おはな

【2024年度 報告】

合計47回開催。（4月～3月25日までの開催分） 平均1回4組。最小開催2組。
延べ参加人数 おとな：247人 こども：312人 おにぎりサポーター：31人

地域の母と共に創る「おはな」から、母たちを包み込み、受け止める「おはな」へ。

- ・子どもの年齢が低く、母にべったりする年頃のため、母たちが積極的に動くことが難しい状況。

⇒オモイをすくいあげる声かけを意識し、スタッフ主導ではなく、あくまでメンバーの一人として意見を伝え、行動するよう心掛け、「共に創る」姿勢や雰囲気づくりを貫いた。

⇒継続参加で、安心が育まれ、ともに場を創る雰囲気への理解も深まってきました。

開催時の場づくり、ごはんづくりなど、率先して動き、チカラを注いでくれるメンバーや、イベントの企画提案などの声をあげるメンバーも生まれてきました。

2024年度方針①：リピーターを増やす＝また来たい！と思える居場所にしていく

また来たい！と思える安心な場づくりを意識して、つながりを作るキッカケをつくります。

＜方針①ふりかえり＞

- ・参加メンバーに応じて、朝の会の実施（メンバー紹介・おはなの大切にしているオモイの共有）
- ・名札の作成や着用
- ・季節を楽しむ企画の開催（参加しやすくなるキッカケづくり）
- ・共に子育てを楽しむ雰囲気が伝わるような工夫
 - ⇒ 初参加のメンバーには意識的に声をかけ、母の悩みや心配事に寄り添う姿勢で関わった
 - ⇒ 継続参加することで、居場所が本当の居場所になることを伝え、リピート参加を促した

2024年度方針②：参加するメンバーの個性やアイデアが生きる機会をつくる

趣味や特技からのイベント企画、やってみたいというオモイが叶う企画の開催

＜方針②ふりかえり＞

【企画実施歴】

- 春・耳つぼマッサージの会 ・麴調味料づくり
- 夏・フルーツポンチづくり ・川あそび
- 秋・おはな運動会 ・ハロウィン企画 ・いもほり企画 ・みかん狩り企画
- 冬・子育て支援者交流会の参加とアフタートーク ・クリスマスパーティー
 - ・絵本読み聞かせ会 ・カラダにやさしいおやつとドリンクタイム

2024年度方針③：広報活動に引き続き、注力する

<方針③ふりかえり>

- ・Instagramでの配信
⇒秋ごろから投稿がストップ（スタッフ体調不良のため）
⇒1月頃から、ストーリーズ配信で、少しずつ配信を再開
- ・交野市内の助産院などの子育て支援施設を訪ね、広報活動を行う
⇒昨年度は未訪問。年度末もしくは、新年度すぐに訪問できれば、新規獲得につながる可能性有
- ・参加メンバーが友人を紹介したくなる居場所にする
⇒友人を誘って参加してくれるメンバーがいた
親子共に「楽しめる」場という紹介だけでなく、子育てをがんばりすぎている、しんどそうな印象の友人の癒しになることを願って、紹介するメンバーもいた

【2025年度 方針】

つぎの①・②を通して…

多様な人が生きる・輝く機会をつくと共に、「おはな」の活動をさらに活性化させていきます。

①今年度も引き続き、継続して開催する（週1回開催）

⇒スタッフの産休育休期間も継続開催できるよう、参加メンバーやおにぎりサポーターへヘルプを出し、それぞれのチカラを無理なく出し合って創る雰囲気加速させる

②参加メンバーの「やってみたい！」やつながる人の「やってみたい！」を企画・イベント化し、おはなの活動を充実させる

⇒多様な人と「おはな」をつなげるコーディネーター的動きに注力

◎ 親子いどこ塾

【2024年度 報告】

- ・2024年度は、日帰り3回、宿泊1回を開催
⇒日帰り開催：6/9（6家族）、10/6（8家族）、2/2（3家族）
⇒宿泊開催：11/2-3（7家族）
- ・不定期でも継続して開催できましたが、参加家族数は安定しない印象。
⇒寒さが厳しいとハードルが高い、など、季節的なことが影響している可能性が高い
- ・対象年齢の拡大（幼児対象から小学三年生まで参加可能に）
⇒「いどこ塾」参加へのステップを緩やかなものにし、
多様な子どもたちの多様なステップに寄り添える仕組みに変更

⇒親子いどこ塾キャンプ（宿泊）のアンケート回答から、その意味や良さを実感
（アンケート回答より）

- ・子どもにとってはステップが緩やかになる
- ・保護者には、子どもが成長しても、他の家族とつながり、そだちあう機会につながる

・初めての宿泊開催

⇒7家族が寝食を共にし、いつもよりも長い時間を共に過ごすことで、
おおきな家族のような一体感が生まれ、つながりが深まったように感じた

⇒開催前の大雨予報で、幼児連れの家族は参加への不安が大きかったように感じた

（「雨でも楽しめますか？」「土砂災害は大丈夫か？」などの問い合わせがあった）

参加メンバーは不安や心配を抱えての参加ではあったが、スタッフが子どもたちと共に大雨を楽し
む雰囲気づくりを心掛けたことで、大雨という想定外の出来事をのびのびと楽しむ

子どもたちの姿や、「大雨でも楽しかった！」という声が、おとなの学びや意識変化につながった
と感じている

⇒子どもたちが寝た後の交流会、昼の対話会など、おとなが対話する時間を設けることができ、日
帰り開催以上に、おとなの学びや理解を深める時間をもつことができた

対話を通して、理念への理解が深まることで、法人への理解とファンづくりにつながった

⇒参加後アンケートは、各家族にとって充実したものになっていたと感じられる回答が多く、アン
ケートを実施してよかった

家族単位ではなく、父母それぞれに回答してもらうことができてよかった

【2025年度 方針】

・継続開催する

- ・おとな（保護者）がどう在るかが、子どもに大きく影響していると考え、
”おとなに学びが起こること” ”おとなが主体になれる時間をもつこと” が保証できるよう、
スタッフ体制を手厚く整え開催する

⇒子どもに大きく注力しなくても、幼児期の子どもは、自然とありのままにいられる姿がある。

おとなに変化が起こるよう注力することが、子どもが自然なまま、イキイキのびのびできる環境
を創ることにつながると考える。